

事業所理念	「放課後サポートクラブえがお」はすべての子どもたちが自分らしく輝けるように私たち大人がどのように支えていけばいいのか 子どもたちの将来をみんな協力してより良く成長できるように支える社会にできれば そんな社会が実現することを目指しています		
サポート方針 (支援方針)	さまざまな体験を土台とし 子どもたちの成長に向け 子どもたちの成長を支えるために 私たち大人ができることは何かと考えたとき 子どもたちの成長を支える環境整備が大切になります 将来社会を生き抜くチカラを身につけた大人になるためには 子ども頃からさまざまな活動に挑戦し さまざまな経験を積み重ねていくことが必要です そのためには私たち大人が子どもの生活環境のなかに意図的にまた計画的にさまざまな体験活動の場や機会を作っていくことが必要になります 体験活動により養われる子どもたちのチカラの向上を目指します		
営業時間	【月～金】 9：00～18：00 【長期休暇中】 9：00～18：00 【日曜日】 10：30～16：30	送迎実施の有無	【月～金】 } 送迎あり 但し 計画的に送迎を実施しているため 送迎をお断りする場合があります 【長期休暇中】 } 【日曜日】 送迎なし
家族支援	保護者 家族の子どもについての意向 今の生活やこれからの生活の希望や思い 願いに加え 家族のニーズは支援の方向そのものです 保護者 家族の思いや悩みを話し合うことはとても大切です 家族サポートこれを柱として 中心にすえること このことが家族支援です こどもを支援することはもちろんですが その保護者 家族をサポートすることが何よりもその子どものためになります 保護者 家庭の心理的負担を軽減してその子どもが安心安定の生活が送れるようにすることがこれからの生活を豊かにする方向への大切な支援につながります		
移行支援	生活が変わる時期の引継ぎ 特に（学校から社会へ）（子どもから大人へ）という2つの移行を迎える子どもたちの将来を支えるため 「放課後サポートクラブえがお」が中心となって福祉 教育 医療 行政 労働等を含んだネットワークを築き将来へのニーズに沿った支援の内容 具体的な支援の方法について共通理解を進め円滑な移行が行えるようにすることで一層の成長が見込めるようにします		
職員の質の向上	新人研修 スキルアップのための研修 法定研修 防災に関する研修 ケース検討会等々はもちろんのこと 「放課後サポートクラブえがお」が大切にしていることは 個別支援計画です 個別支援計画の内容が放課後等デイサービスの内容そのものであり その質が放課後等デイサービスの質となります 「課題がたくさんあってわからない」「どこから取り組んだらいいかわからない」とならないよう 課題を整理し優先順位をつけ支援の方向を決めるようにしています 個別支援計画を作成してしまえば終わるのではなく 子どもの変容に合わせて修正が必要になってきます 子どもに添った支援の実現には作成 実施 評価 改善のサイクルが必要です それは 常に自分の支援を振り返り 見つめ直すことになり 子どもの支援の専門家としての力量を高めることになり		
地域支援・地域連携	地域社会の理解と協力を得ることで よりよい「放課後サポートクラブえがお」の提供ができます 子どもの成長を支えられ 子どもたちが安心して成長できるように 地元のコミュニティーとの強力な連携を進めます		
「放課後サポートクラブえがお」不登校課題の考え方についておよび対策	不登校の要因背景は多様化し 新たに不登校との関連で指摘されている ADHD、LD 児童虐待等の課題 不登校の悩み 不安を持っている人がいます 私たちは「放課後サポートクラブえがお」によるサポートによって 解決に少しでも役立てることができればと考えたとき「放課後サポートクラブえがお」の役割が見えてきました 「放課後サポートクラブえがお」の役割は大きく 不登校の理解に基づいた確実な取り組みを進めていきます 不登校児童及び不登校傾向にある児童及びその保護者が 自然体験活動 ものづくり体験活動 生活体験活動を通して野外活動等の楽しさや 人との触れ合いの大切さを知ること 一人一人の人間性の成長にしっかりと目を向けながら 子どもたちが自分らしく過ごせる居場所として またさまざまな遊びや体験活動等の機会を提供していくことができる子どものための育ちの居場所として 「放課後サポートクラブえがお」は 出雲市大社町宇龍116「日御碕」に おもに不登校児童および不登校傾向にある児童およびその家族を対象とした 「子ども体験教室えがお」を 令和7年5月1日に開所します 令和7年1月27日から令和7年4月30日までは準備期間とし準備メンバーにより構成される準備委員会「私の居場所を増やそう 海に囲まれたあなたの居場所 自然の中で未来を描こう」を立上げます 営業日は毎週日曜日とし 営業時間は10時30分から16時30分とします		
イベント等 様々な自然体験活動を通して今後に向けた「次の一歩」を踏み出すためのサポートを行います	<p>自然とのふれあいが減っている子どもたち ゲーム等の存在や放課後の自由な時間の減少傾向により また外で遊ぶことへの興味を失ったことも 少なからず影響しているのかもしれませんが 当たり前のように一昔前は自然と触れ合う日々が普通でしたが 今の子どもたちには なかなか自然のなかで遊ぶ機会が得られません 自然との触れ合いは 子どもの学習能力 創造力を高め メンタルヘルスを健全に保つことがさまざまな研究結果から示唆されています さらに自然のなかでの遊びは 問題解決能力 集中力 自制心の発達に役に立ちます また 協調性や柔軟性が向上するため 他者とうまく付き合えるようになります 子どもが自然にあまり触れず 家のなかでゲームばかりして育つことで 集中力がなかったり 多動であったりという さまざまな行動面の問題を抱えています 自然体験をするほど 子どもが健全に育つことが「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」で報告されています</p> <p><b>親子でぐらりぐらりと歩こう</b> 美しい景色も多くリラックスできる環境の中 じっくりと日御碕周辺の海岸沿いの散歩を楽しみます 歩くだけで気持ちが洗われます</p> <p><b>親子で宇龍港の波止場での釣りを楽しもう</b> 親子での釣り体験活動です 現在地元の漁師さんに波止場での釣り体験のご指導いただけないか調整中です 自然体験活動のため期間限定となります 5月から10月頃までとします</p> <p><b>おわし浜海水浴場での親子海水浴を楽しむ</b> 「こども体験教室 えがお」から徒歩10分ほどでおわし浜海水浴場に到着します 親子での海水浴を楽しみます おわし浜海水浴場は夕日が素晴らしく景観も良い海水浴場です 内海のため波も静かなで水の透明度が高いことでも知られています 自然体験活動のため期間限定となります 7月から8月頃までとします</p> <p><b>みんなで一緒に日御碕の外食チャレンジ</b> 日御碕の周辺食堂での地産地消で作られる自慢料理 季節の地魚料理を日御碕の自然の中 みんなと一緒に食べます</p> <p><b>子ども体験教室でのボランティア活動</b> ボランティアは地域や社会をより良くする活動であると同時に活動する人の成長にもつながる力を持っています 具体的には親子での海のゴミ拾い ボランティア活動をおこないます</p> <p><b>学生ボランティアとの交流</b> 学生ボランティアとの交流を図り 活動の中で安心して自己開示を行いながら 一歩踏み出せる自分自身を見出せるような場の提供および時間を設定します</p> <p><b>なぜ家族同伴なのか</b></p> <p>私たちは 子どもや保護者の居場所の選択肢を地域に増やしていきたいと考えています 子どもと保護者がお互いに学び合える 自然体験の場として「子ども体験教室えがお」を開所することで 子どもと保護者が一緒に活動することは 子どもにとってかけがいのない思い出になるだけでなく多くの学びを得られます また保護者が子どもと一緒に自然体験活動をして他の子どもや保護者と心地よく時間を過ごすことで 自然に包まれる中で 保護者同士のおしゃべりで思いきりリフレッシュし 子どもたちを見守りながら 保護者みんなで子育てしているというコミュニティづくりの場にもなります 保護者同士学びあえる場でもあります 保護者自身も自然の中で癒される そのことも目的のひとつです</p>		



放課後等デイサービスでは、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定において、総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、運営基準において、5領域(健康・生活) (運動・感覚) (認知・行動) (言語・コミュニケーション) (人間関係・社会性)との関連性を明確にした、事業所における支援の実施に関する計画(支援プログラム)を作成し、公表することが求められることになりました。

「放課後サポートクラブえがお」の支援プログラムは以下の通りです

5領域	ねらい	活動名	支援内容
本人支援	健康 ・ 生活	ゴミの分別プログラム	<出雲市 ゴミの分け方・出し方ガイドブック>を使い、正しい分別方法を学びます。段ボールや雑誌等を崩れないようにまとめる際の紐の結び方を練習することで、指先のコントロールにも繋がります。
		身だしなみチェックプログラム	人に不快感を与えない等、他者からの視点を知り、整った身なりや清潔にすることを心がけられるよう、鏡を使って自分を見たり、清潔にするとはどういうことかを考えます。
		お金の計算 買い物リストプログラム	実際のお金を見たり触ったりしながら、紙幣と硬貨の違いや、特徴を観察し、お金の出し方が一通りではないこと等を学びます。お店のチラシ等を見ながら、本体価格や税込み価格があることを知り、予算内で買い物ができるよう電卓を使って計算をします。
		えがおショッピングプログラム	お金に関心を持ち、お金の大切さを学ぶ為、実際のお金を使っておやつを買う等、模擬的な買い物をを行います。限られた所持金内で買い物ができるよう、選ぶ力や計画する力を育て、お客さん役と店員役を交代で行うことで仕事に対する興味を持ち、支払う際のマナーも学びます。
		整理整頓プログラム	散らかっている場面を観察する等、どこをどのようにしたらよいのかを考えながら、片づける方法を知り、必要性を学びます。清潔にする意識や自立心を育み、自分の物と人の物を区別して物を大切にすることを学びます。
		ぴかぴか大作戦プログラム	正しい掃除の方法や掃除用具の使い方を学ぶ為、スタッフと一緒に掃除を行います。掃除を通して、道具や場所に対する感謝の気持ちや清潔保持の大切さを学びます。
		心とからだのプログラム	小学生は性教育として、体のつくりや働きを理解すると共に男女の体の違いや発育、発達の特徴を知り、互いに尊重し合う心を育て、人の誕生について理解します。思春期(概ね中・高生)は男女の理解を深め、性行動のリスクと責任を考えます。また、プライベートゾーンのルールや自分の性やからだを大切にすることを学びます。
	生活における マネジメントスキルの育成	季節の対策プログラム	気温に適した服装や季節に流行する感染症等を知り、感染症の予防や対策方法を意識し取り組む為、動画や紙芝居等を見たり、知っていることを話し合い、意見交換を行います。
		マインドマッププログラム	中心となるキーワードから関連する言葉やイメージを放射状に広げていく図で、思考の整理や発想を助ける表現方法です。あるテーマに沿って、連想させながら単語を書き出し、頭の中を整理することで、自己理解を深めます。
		自主学習活動プログラム	学習意欲を高めると共に、学習内容を自分で設定することにより自分で決定することの大切さを学び、自主性や自信を育てます。
		幸せに生きるためのプログラム	ゆっくり、じっくり、自分らしく成長していけるよう支援し、そのなかで働きたい・役に立ちたいという気持ちを育てていきます。人とのつながりを持ちながら自分らしい生活を考え作っていきます。自分が幸せになっていくための力・生きていく力をつけていきます。自分が幸せに、素敵な人生、素敵な暮らしを歩んでいくために。
		福祉制度を学ぶプログラム	福祉制度にはどんな種類があるのか、「障がいがある方でサポートを必要としている方に対して、障がいの程度や置かれている状況を踏まえて必要な支援を提供するサービス」などがあります。みんなが幸せになれるように、取り組む活動や仕組みをいいます。このような自立を支援する社会的サービス等について学びます。
		運動活動プログラム	身体を動かすことにより、心の解放を図ります。
		季節の製作プログラム	製作を通して季節を感じられるよう、季節の花や行事の製作を行います。切る、折る、ちぎる、塗る等の作業から集中力の向上を目指し、指先のコントロールや道具の使い方を練習します。出来上がった作品をえがおに掲示したり、持ち帰ることで、達成感や家族のコミュニケーションに繋がります。
運動 ・ 感覚	姿勢と運動・動作の 基本的技能の向上	洗濯ばさみで体探検プログラム	目隠しをした状態で、衣服の様々な場所に付けられた洗濯ばさみを探して外すゲームです。洗濯ばさみをつまむ際の力加減の調整や、集中力の向上、洗濯ばさみを外す際にいろいろな体勢になることでボディイメージを育みます。
		コグトレ棒(新聞棒)プログラム	新聞で作った棒を使い、自分の身体を知る為に体操を行ったり、物をコントロールする力をつける為、新聞棒を投げたりキャッチする等を行います。

5領域	ねらい	活動名	支援内容	
本人支援	姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	円柱さしプログラム	高さや直径の異なる円柱を、親指、人差し指、中指の3本の指で掴み、視覚で識別しながら同じ大きさの穴にはめ込む感覚教具を使います。	
		両手動作の練習プログラム	棒に毛糸や紐を巻き付けたり、カードを輪ゴムでまとめる等の両手を使う練習を行います。	
		箱の中身は何かなプログラム	箱の中の物を触って当てるゲームです。視覚に頼らないことで想像力や手の識別覚を養いながら楽しむことができます。	
		身体を動かそうプログラム	身体の柔軟性の向上、身体を動かすことの楽しさを味わうため、ヨガや体操、ダンス等を行います。	
		実験プログラム	変化をただ目で見ただけでなく、変化を想像しながら遊びやゲームを取り入れ、身近な不思議の体験をします。	
		バウンスオフゲームプログラム	力加減の調整や物をコントロールすることに気をつけながら、ピンポンボールを的に入れるゲームを行います。	
		壁面ツイスタープログラム	身体の部位や上下左右の方向を意識しながら、壁面に貼られた番号を身体のいろいろな部位でタッチします。	
		割りばし散歩プログラム	身体のバランスを取りながら、足や手に乗せた割りばしを紙コップ間を移動させるゲームを行います。	
		ペットボトルボーリングプログラム	力加減の調整や物をコントロールする力を意識しながら、ペットボトルをボーリングのピンに見立て、ボーリングを行います。	
		おしりリレープログラム	身体の使い方の感覚を掴み、身体を動かすことの楽しさを味わうために、おしりで進むレースを行います。	
	卓球プログラム	動体視力・反射神経を鍛え、物をコントロールする力を養うため、卓球を行います。		
	運動・感覚	保有する感覚の活用	おやつ作りプログラム	素材への理解を深め、手触り、匂い、味等、五感を使うことで感覚の発達を促すため、スタッフと一緒におやつ作りを行います。
			あっちこっち迷路プログラム	ドミノで作ったコースの中を進路方向を読み取りながら、長い棒を操作し、ビー玉を移動させるゲームです。
			ビジョントレーニング	数字や色、手の形等、様々なカードを見ながら両手で違う動作をしたり、目で見たと違う動作を行います。
			ビジョントレーニング(時限爆弾ゲーム)	プラレールで作ったコース内に風船(時限爆弾)を置き、周囲をよく見ながら列車が風船に当たる前に風船を避けるゲームを行います。
			ビジョントレーニング(よく見て聞いて)	姿勢を維持したり、バランスをとりながら、ツイスターゲームのように、床の上に置いた番号を手や足でタッチするゲームを行います。
			目隠しロボットゲームプログラム	ペアを組み、目隠しをしたロボット役を進ませる方向に肩を叩き、協力しながらコース内を歩くゲームを行います。
			ポッチャプログラム	ルールを守りながら、ポッチャのゲームを行います。得点を決める際に、みんなで話し合いを行うことで、ルールの理解が深まり、相手に伝える練習につながります。
			転がしドッチボールプログラム	ボールを投げるのではなく、外野からボーリングのように転がして内野に当てる方法で、ドッチボールを行います。
			ぐらぐら宝探しプログラム	平均台を歩いてバランスを取りながら、手作りの釣り竿を使って宝探しをするゲームを行います。
大袋バレープログラム			数人ずつのチームに分かれ、みんなで大きな輪になり、大きなポリ袋をボールに見立て、名前を呼び合いながらパスを回したり、ゲームを行います。	
感覚の補助及び代行手段の活用	基礎的な体力や心身の健康の保持促進プログラム	子どもが楽しく、年齢(発達段階)と能力に適した多様な身体活動に参加できるようにします。		





5領域	ねらい	活動名	支援内容
人間関係 ・ 社会性	アタッチメント (愛着)の 形成と安定	個別カウンセリングプログラム	子どもの悩みや困っている事への相談活動を通し、心を安定させるとともに自分自身を見つめ直す機会とします。
		先生とお話をしようプログラム	自分の事を人に話すことで、自分の状態を知るために、スタッフと個別に話をします。
	情緒の安定	カードゲームプログラム	ルールを理解し守りながら、様々なカードゲームを行います。
	他者との関わり (人間関係) の形成	未知の状況にも 対応できるプログラム	思考力、判断力、表現力など
		社会性や 共に生きる力の育成プログラム	多様な他者とともに自ら学び自己調整力を育てます。また、より良い人間関係や信頼関係を育みます。
		スマホのマナーとルールプログラム	スマートフォンやタブレット等、インターネットを安全に使用するためのルールを知り、トラブルを回避したり対処法を学びます。
	仲間づくりと 集団への参加	仲間作り活動支援プログラム	ゲームやグループエンカウンター等を通じて友人関係の拡大と深化を図ります。
		交通安全について学ぼうプログラム	交通ルールに関心を持ち、危険認知能力を高めるために、交通ルールを確認したり、ヒヤリハットの場面でどのようにしたらよいのかを考え、小集団のなかで発表します。
		こんな時どうする？プログラム	様々な場面をスタッフがデモンストレーションを行い、「こんな時どのようにしたらよいか」をテーマに小集団のなかで考え、ロールプレイングをしながら練習をします。
		チクチク言葉を ふわふわ言葉に変えようプログラム	スタッフがチクチク言葉やふわふわ言葉を使ったデモンストレーションを行い、相手の気持ちを考え、優しい言葉で話をする大切さを学びながら、チクチク言葉をふわふわ言葉に言い換える練習を行います。
		〇〇してもいいですか？プログラム	コミュニケーションをとる際に、相手の同意を得る大切さや得られないことがあることを学ぶため、大きなサイコロを使って同意をとる練習を行います。
		〇×ゲームプログラム	様々なマナーやルール等について、どうしてダメなのかを考えながら、〇×ゲームを行います。
		地域交流	図書館を始め、いろいろな場所に外出して地域交流をし、公共マナを学びながら体力づくりを行います。

個別支援計画で設定された目標を達成するため、放課後サポートクラブえがおでは、集団による様々な活動プログラムを提供しています。

集団活動では、子どもたちが同じ活動をするという設定が多いですが、活動内容は皆同じでも、一人一人の活動における目標は違うということスタッフ一同、意識して関わっています。

活動プログラムは子どもたちの個別支援計画の目標を達成するための支援の手段（方法）です。目標達成に向けて、どのような経験を通して子どもたちに学んでもらいたいのか、そのためにはどのような活動を提供すれば効果的なのか、ケース会議等で検討し、スタッフ間で共通認識して日々の支援を行っています。

療育のサービス提供は、スタッフが目の前の変化に迅速かつ臨機応変に対応しています。療育サービス提供は、OODAループそのものと言えます。

①見る (Observe) : 観察

相手を観察し、情報収集する

②分かる (Orient) : 仮説構築、方向づけ

情報を分析し仮説を立て、方向づけをする

③決める (Decide) : 意思決定

現状に対して具体的な実行計画を決定する

④動く (Act) : 実行

決定した計画を実行に移す

そしてまた①見る (Observe) に戻り、OODAを繰り返しながら療育サービスの提供を行います。